

社会科学習指導案

指導者 五十川 純輝

1. 単元名 「命と暮らしをささえる水」

2. 単元目標

人々の健康で良好な生活を支えるため、飲料水を安定して供給する対策や事業が、計画的・協力的に進められていることを理解する。【知・理】

水道水を送る仕組みや施設、仕事に携わる人々の働きを見学し、事業の果たす役割が、自分たちの健康な生活を支えることに気づくことができる。【思・判・表】

安全で安心な水をこれからも守り続けるために、住み続けられるまちづくりの担い手として、自らも自然環境の保全等を実践する態度を養う。【関・意・態】

3. ESD との観点

「多様性」・・飲料水を調べることを通して、仕事に携わる人々の働きについて考えることができる。

「責任性」・・節水や環境について調べ、責任制の重要性を理解することができる。

4. 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技 能	社会的事象について の知識・理解
<ul style="list-style-type: none">・飲料水の確保に関わる対策や事業に関心をもち、意欲的に調べ、考えながら追究しようとする。・地域社会の一員として、節水などの取り組みに協力しようとし、環境を守り続ける態度を考えようとしている。	<ul style="list-style-type: none">・飲料水の確保に関わる対策や事業について学習問題を考え表現している。・飲料水の確保に関わる対策や事業は、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考え表現している。	<ul style="list-style-type: none">・飲料水の確保に関わる対策や事業が計画的・協力的に進められている様子を見学したり、調査したりして調べ、調べた過程や結果をまとめている。	<ul style="list-style-type: none">・飲料水を供給する事業の対策は、計画的・安定的に進められていることを理解している。・飲料水の確保と、自分たちの生活とのかかわりを理解している。・飲料水の確保は健康な生活を支えていることを理解している。

6. 単元設定の理由

○児童観

社会的事象について、ほとんどの児童は興味・関心をもち、授業に取り組むことができる。特に、写真や実物を提示する事で児童の興味・関心が高まり、自分の日常生活と関連させて

発言することができる。児童は、ペア学習や少人数での話し合いでは、自分の考えを活発に交流することができる。全体の場合では、同じ意見に賛同したり、違う視点から意見を述べたりする児童もいる。

その反面、自分自身の課題をみつけ、資料を活用しながら問題解決していく力が弱い児童もいる。

これまでに児童は、「ごみのしまつと活用」について学習している。捨てたごみがどうなるのか調べる活動を通して、リサイクルなど言葉の知識しかなかった児童が、ごみを少しでも減らそうと考え行動する姿がみられるようになった。

本単元にあたり、生活において水道水を使用している児童が、どの程度、水道水に興味・関心をもっているかを調べるために、事前に「水道水に関するアンケート」を行った。その結果、児童は、蛇口をひねると水が出るのは当たり前であると考えていることが分かった。児童は、水の大切さは知っているが、なぜ大切なかが理解できていない。また、「健康な暮らしを守っていること」にも結びつけて考えることができていない。

○教材観

飲料水を供給する事業は、人々が安心して使うことができるよう様々な面で安全確保に努めている。関係機関が相互に連携することで安定的に飲料水を供給できるように進められることを理解する。また、これらの事業が健康な暮らしに役立つことを考える。実際に浄水場を見学し、水道施設の仕組みや働く人々の思い、努力を理解する。

かぎりある水を守るためには、自分たちが日常生活でできることに気付き実践する態度を育てる。

○指導観

児童が、実際に蛇口をひねり水道水を利用する場面をつくり、普段から使用できる水量の多さに興味・関心をもたせる。ペットボトル飲料水の採水地を調べ、橋本市は紀ノ川からの水を利用していることを知る。浄水場を見学し、安心・安全な水を作るために、様々な工程があることを理解させる。また、浄水場で働く人々の話を聞き、安全で安心な飲料水を確保するための工夫や努力を理解させたい。

また本校の取り組みにあるSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「11 住み続けられるまちづくり」と関連させて指導する。ここでは、ダムについて取りあげ、県内外の人々の協力があり自分たちが水道水を利用していること、使用した水は循環されることを指導する。

かぎりある水を守り続けるために、生活の中で節水や水を汚さないための工夫を考え、児童自身が実践していこうとする態度を育てたい。

本時は、暮らしに必要な安心・安全な水に、浄水場や人々の働きだけでなく自らも関わっていることに気づかせる。これまでの学習を活用し、暮らしに必要な水を守り続けてい

くために、自分たちができることを考える。節水をするのみで終わるのではなく、紀の川を汚すことは、橋本市内や他の地域の人々にも迷惑をかけてしまうことを考えさせたい。また、自らが水を守り続ける率先者となり、人々に対して暮らしに必要な水の大切さを伝えることができる態度を育てたい。

◇主体的・対話的・深い学びと関わって

児童がさらに本単元を意欲的に取り組むことができる手立てを3点、考えている。

1点目は、実際に橋本市浄水場で働く高岡さんについて紹介する。「橋本市の水道について知りたい」「浄水場に行ってみたい」と関心や興味をもたせる。

2点目は、児童が主体的に学ぶことができるよう一人一冊以上の水に関する書物を準備し、教室で常時読めるよう置いておくことで、常に調べることができるようにする。

3点目は、浄水場実際に見学をし、浄水場がどんな働きをしているのか、具体的に知り、「もっと詳しく調べてみたい」と考えさせ、児童が調べた学習をさらに深めさせていきたい。さらに、「安全な水を利用し続けるためには、自分たちはどうすればいいのか」と自己のキャリア形成の方向付けと関連させる。飲料水の確保に関わる事業や対策を学習したことで、ガスや電気の確保はどうなるのかと、次へつながる学習課題をもたせる。

児童自身が、これまでの飲料水の利用について振り返ることや、見学に行き、浄水場で働く人の話を聞くことで、対話的に学ぶことができると考える。

かぎりある水をこれからも大切にすることに、自らが関わっていることに気づかせ、見学や書物から得た知識を用いて、自分たちなりの思いや考えをもとに解決策を考え、提案することで深い学びにつながると考える。

7. 単元指導計画【全10時間】

時	学習活動	評価
1	・地球上で生活に利用できる水量や、毎日の生活の中で利用する水量がどれほどなのか考える。	・わたしたちの生活に欠かせない水に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。 【関心・意欲・態度】(児童の発言・ノート)
2	・ペットボトルの採水地を調べ、橋本市の水道水はどこから流れているのか考える。	・水道水がどこから送られているのか関心をもっている。 【関心・意欲・態度】(児童の発言・ノート)
3	・浄水場の仕組みを本や資料から調べる。 ・水をきれいにする方法以外にも調べたいことや不思議に思ったことを考え見学の計画を立てる。	・飲料水が私たちのもとに送られてくる仕組みについて意欲的に調べ、不思議に思ったことを表現している。 【思考・判断・表現】 (児童の発言・ワークシート)

4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料水の確保が、計画的、協力的に進められている過程を見学する。 ・浄水場で働く人の説明を聞き、質問をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浄水場の見学などにより、飲料水の確保が、計画的、協力的に進められている仕組みを見つけている。【観察・技能】 ・飲料水を供給する事業の対策は、計画的・安定的に進められていることを理解している。 <p>【知識・理解】(児童の発言・ノート)</p>
6 7	<ul style="list-style-type: none"> ・見学で分かったことを整理しノートにまとめる。 ・浄水場で働く人々の工夫や努力や、安全な飲料水の確保を計画的・協力的に進めていることについて理解したことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学で分かったことを、メモを整理しながらまとめる。【観察・技能】 ・浄水場で働く人々の仕事や工夫や努力と、安全な飲料水の確保とが関連していることを考え、適切に表現している。 <p>【思考・判断・表現】(児童の発言・ノート)</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料水の確保のために、ダムや森林の働きが必要であることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダムにより安定的に水が送られることや水を守るために森林環境の保全が大切であることを理解している。 <p>【知識・理解】(児童の発言・ノート)</p>
9 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料水をつくるために必要な資源にはかぎりがあることから、水の使い方を見直し、自分たちができる工夫を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料水をつくるために必要な資源にはかぎりがあることから、水の無駄な使い方を見直し、有効に使うことが大切であることを私たちのくらしと関連づけて考え、適切に表現している。 <p>【思考・判断・表現】(児童の発言・ノート)</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちができる日常生活での取り組みが、他にもあることを知り発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガスや電気の利用について考え、日常生活からできる取り組みを考えている。 <p>【関心・意欲・態度】(児童の発言・ノート)</p>

8.成果と課題

体験的な活動を授業に取り入れることができた。学習活動を通して、児童が牛乳パックの洗い方が他の学年と違うようになった。水を丁寧に使うようになっている。浄水場の職員さんとのつながりができ、職員さんが本校で行われた防災キャンプに参加していただいた時に、児童から進んで話しかけることができた。

紀ノ川の源流について外部講師を招くことで、川の浄化作用や、源流について考えることができたと思う。

「節水週間ポスター」があることを知ったので、次回は作品に取り組み、入賞者を出していきたい。